

## ＜参考資料＞

### 学生の学びを支援するための取組み紹介

ここでは、学生の学びを支援するための取組み例をご紹介します。各設問を 6 つの枠組みにあてはめて紹介していますので、今後の授業運営の参考としてご活用ください。この取組み例は授業によって実施が困難な場合がありますのでご了承ください。なお、本参考資料に掲載の取組みは、本学教員による実際の取組みや（参考文献）『学習意欲をデザインする』をもとに作成されています。

#### 1 学生の興味や知的好奇心を高める【Attention】

- Q01 関心を持てる内容である
- Q08 熱意をもって授業をしている

#### 2 学生に学ぶ必要性を認識させる【Relevance】

- Q05 この授業を受けて、自分が何を学ぶべきか明確になった
- Q06 この授業を受けて、いろいろな視点から物事を見ることができるようになった

#### 3 学生に「できる」という自信を持たせる【Confidence】

- Q02 授業内容の説明がわかりやすい
- Q13 授業の内容が理解できている

#### 4 学生の授業に対する満足感の向上【Satisfaction】

- Q04 成績の評価方法が分かりやすく示されている
- Q15 総合的にみて、この授業に満足している

#### 5 教員の取組み・静粛な講義環境【Instructor's Behavior】

- Q03 テキスト・板書・資料等が内容の理解に役立っている
- Q07 言葉が聞き取りやすい
- Q09 計画的に授業をしている
- Q10 静かな環境で学生が受講できるように配慮している

#### 6 学生のふるまい・学生の集中力を高める【Student's Behavior】

- Q11 私語や居眠りなどをせずに授業に集中している
- Q12 遅刻や途中退出をしていない
- Q14 授業時間外でも、この授業のための学習をした（予習・復習、課題の準備などを含む）

（参考文献）「学習意欲をデザインする—ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン」、ジョン・M. ケラー（著）、John M. Keller（原著）、鈴木克明（翻訳）、北大路書房（2010/07）

## 1 学生の興味や知的好奇心を高める【Attention】

関連設問番号：Q01, Q08

➤ 学生の好奇心を高めることにより授業への集中力が高まり、学習意欲の向上につながります。

(取組み例)

- 学生の様子をよく見る。学生の状態に合わせて説明を加えたり、話の順序を入れ替えたりする。
- 質問を投げかけたり、グループワークを実施したりする。
- 話に変化をつける（抑揚、速度、まじめな話、ユーモアのある話など）。
- 重要な用語は色を変えて板書している。
- 毎回の授業の導入部分を特に分かりやすくする。
- 最新的话题を取り上げる。
- 画像や映像などを活用する。
- 抽象的な表現よりも比喻やたとえ話で具体的に表現する。

## 2 学生に学ぶ必要性を認識させる【Relevance】

関連設問番号：Q05, Q06

➤ 学習内容が学生にとって必要である（役に立つ）と感じることができれば、学生はより授業に積極的に参加できると考えられます。

(取組み例)

- 学生に学習内容が将来どのように役に立つのかを具体的に説明する。
- 学習後に何ができるようになるのかを明確にする。
- 学んだことと実際の現状を対比させ、学生自身が考えることを促す。
- 毎回の講義のはじめに、到達目標を示し、授業の終了時に振り返りの時間を設けている。
- 何をどこまで理解していれば、合格になるのか学生に伝える。
- 学生の関心の高い（親しみやすい）事例を用いる。
- 身近な事例と関連付け、平易な言葉で説明している。

## 3 学生に「できる」という自信を持たせる【Confidence】

関連設問番号：Q02, Q13

➤ 学習に対する自信が持てれば、更に上位レベルへ挑戦する意欲へとつながります。

(取組み例)

- 多くのことを教えるよりも、基本的で重要なことにポイントを絞る。
- 難しい課題から投げかけるのではなく、易しい問題から段階を踏んで取り組ませる。
- 到達目標を明確にし、学生に達成感を感じてもらう。
- 取り組んだ課題に対する評価を学生にフィードバックする。
- 学生がどの程度理解できているか確かめる機会を作る。
- 講義の初回では、板書をどうノートに取るかから教える。
- その日の講義内容を宿題に反映し、理解の定着に繋げる。
- 学生は分からないところがあっても質問をしに来てくれないため、教員側から巡回して尋ねる。
- マナビコースを活用して、前回講義の復習問題を行う。
- 数学に関する部分では、学生が分からないところまで戻って教えている。
- 学生が理解した内容を他の学生に説明するなどして、自己確認を行う機会をつくる。
- 学生がノートをとれているかどうか確認する。

#### 4 学生の授業に対する満足感の向上【Satisfaction】

関連設問番号：Q04, Q15

- 学習本来の楽しさを実感し、公平さを感じることができれば、学生は授業に対する満足感を得るのではないのでしょうか。

##### (取組み例)

- 第1～2回目の講義で講義概要や成績評価方法、受講上のルールを学生に周知する。
- 評価方法を明確にし、学生に授業評価の公平さを理解してもらう。
- 学生が興味を引きそうな関連領域について情報提供をする。
- わかりやすく、聞き取りやすいように、スモールステップで授業を進めている。
- 毎回の講義で、感想や質問を書いてもらい、可能な範囲で次回の講義でフィードバックする。
- 半期に3回程度小テストを実施し、評価とコメントをつけて返却している。
- 学生が発言した場合、平常点のポイントを加算している。
- 講義時間内に課題を出し、成績に反映させる。
- 学生がノートをとれるように、情報を詰め込みすぎない配慮をする。
- 講義の後半に「おさらい（復習）」の時間を用意している。
- 頑張っている学生を褒めてあげる。

#### 5 教員の取組み・静粛な講義環境【Instructor's Behavior】

関連設問番号：Q03, Q07, Q09, Q10

- 授業における教員の行動（振る舞い）を改善することは、学生が快適に授業を受けることにつながるかもしれません。

##### (取組み例)

- 第1～2回目の講義で、学生に対し受講する上での心構えやルールを説明する。
- 講義中、学生の表情に注目し、問いかけをするなど、学生の理解を確認しながら授業を進める。
- 私語をしている学生を適切に注意する。
- 重要なポイントはゆっくり説明する。
- 大きな声で話す。重要な個所は繰り返す。
- 板書・スライドの文字を大きくする。
- 前回の講義の復習に時間をとる。
- 授業のはじめに、その日の講義内容を書いたレジюмеを配布する。
- 教卓にとどまらず、教室内を巡回して緊張感をもたせている。
- 教員が一方的に話す単調な授業では、学生が飽きるため、途中で課題への取り組みを入れる。
- 講義は1つのテーマを1回の講義時間で完結するように努力している。
- 小人数の場合、可能なかぎり学生の名前を覚える。

#### 6 学生のふるまい・学生の集中力を高める【Student's Behavior】

関連設問番号：Q11, Q12, Q14

- 学生が予習・復習を行い、授業へ積極的に参加し集中できるような工夫が大切です。

##### (取組み例)

- 宿題や課題が成績評価にどのように反映されるのかを明確にし、講義時間外の学習の重要性を理解させる。
- 講義の途中で課題に取り組んでもらい、一方的に90分間教員が話さないようにする。
- 講義時間の後半に小課題などを出す。次回の講義で学生にフィードバックをする。
- 講義中に配布する資料では、重要な個所は空欄にし、学生に記入させる。
- グループワークやペアワークを多く取り入れている。（語学科目）
- Webの授業連絡を頻繁に利用し、レジюмеや課題の提出を促している。
- 学生が講義に飽きてきた場合は、教員が質問を投げかける。その際、学生のプライドを傷つけないように配慮する。
- 講義では毎回ミニレポートを実施している。書くという認知プロセスの外化が大切だと思う。
- 講義時間外での学びを促すように、復習用の課題やレポート課題を出している。
- 毎回、A4用紙1枚程度の宿題を課して、出席するように促している。